



CHAPTER 12

Cisco Unity Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更

この章の内容は、次のとおりです。

- 「Connection 9.x サーバがホスト名または IP アドレスのどちらで定義されているかの判別」 (P.12-1)
- 「Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント」 (P.12-2)
- 「ホスト名で定義された、Connection クラスタでない単一の 9.x サーバの IP アドレスの変更」 (P.12-3)
- 「IP アドレスで定義された、Connection クラスタでない単一の 9.x サーバの IP アドレスの変更」 (P.12-5)
- 「ホスト名で定義された Connection 9.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更」 (P.12-8)
- 「IP アドレスで定義された Connection 9.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更」 (P.12-10)
- 「ホスト名で定義された Connection 9.x サブスクライバ サーバの IP アドレスの変更」 (P.12-13)
- 「IP アドレスで定義された Connection 9.x サブスクライバ サーバの IP アドレスの変更」 (P.12-16)
- 「Cisco ボイスメール組織内の Connection 9.x サイト ゲートウェイの IP アドレスの変更」 (P.12-18)

Connection 9.x サーバがホスト名または IP アドレスのどちらで定義されているかの判別

Connection サーバの IP アドレスを変更するための手順は、サーバがホスト名か IP アドレスで定義されているかによって異なります。

Connection 9.x サーバがホスト名または IP アドレスのどちらで定義されているかを判別するには

- ステップ 1** IP アドレスを変更するサーバで、Cisco Unity Connection Administration にサインインします。
- ステップ 2** [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
クラスタを設定していない場合も [クラスタ (Cluster)] ページにアクセスします。
- ステップ 3** [検索 (Find)] を選択してクラスタ内のサーバの一覧を表示します。

- ステップ 4** IP アドレスを変更するサーバの [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] カラムの値がホスト名の場合、サーバはホスト名で定義されています。
- [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] カラムの値が IP アドレスの場合、サーバは IP アドレスで定義されています。
-

Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント

Connection サーバの IP アドレスを変更した場合、IP アドレスによって Connection サーバを参照するすべての関連コンポーネントで同様の変更を行う必要があります。

- クライアント コンピュータにおける次の Web アプリケーションへのブックマーク
 - Cisco Personal Communications Assistant
 - Cisco Unity Connection Administration
 - Real-Time Monitoring Tool
- Cisco Fax Server
- Cisco Unified Application Environment
- Cisco Unified Mobile Advantage
- Cisco Unified Presence
- Cisco Unified Personal Communicator
- Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook
- Connection にアクセスする IMAP 電子メール クライアント
- 電話システムおよび関連コンポーネント
 - Cisco EGW 2200
 - Cisco ISR 音声ゲートウェイ
 - Cisco SIP Proxy Server
 - Cisco Unified Communications Manager
 - Cisco Unified Communications Manager Express
 - PIMG/TIMG 装置
- RSS リーダー
- SMTP スマート ホスト
- 次を含む、VPIM によって Connection に連動しているボイス メッセージ システム
 - Cisco Unity
 - Cisco Unity Express

ホスト名で定義された、Connection クラスタでない単一の 9.x サーバの IP アドレスの変更

**注意**

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。変更内容を有効にするには、サーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。
- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

ホスト名で定義された、Connection クラスタでない単一の 9.x サーバの IP アドレスの変更

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。

**注意**

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、サーバが稼働していて利用できることを確認します。
- a. RTMT を使用してサーバにログインします。
 - b. 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - c. 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、[ステップ 3](#) に進みます。

[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 3** Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- a. [ツール (Tools)] メニューから [クラスタ管理 (Cluster Management)] を選択します。
 - b. [サーバ ステータス (Server Status)] カラムで現在のサーバの値が [プライマリ (Primary)] であることを確認します。[サーバ ステータス (Server Status)] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

- ステップ 5** ディザスタリカバリシステムを使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdr ag.html) を参照してください。
- ステップ 6** サイト内ネットワークを構成している場合、Connection サイトからサーバを削除します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/networking/guide/9xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 9.x](#)」の章を参照してください。

**注意**

サーバを Connection サイトに再度追加する作業には時間がかかる場合があります。この手順を続ける前に、サーバをサイトに再度追加するのに必要な作業を十分に理解しておいてください。

- ステップ 7** DNS サーバでサーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き用 (A) と逆引き用 (PTR) のレコードを両方とも更新します。
- ステップ 8** サーバおよび該当する場合はデフォルトゲートウェイの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
 - [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
 - 新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
 - [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。
- ステップ 9** RTMT で、サーバが稼働して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してサーバにログインします。
 - 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラートセントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、**ステップ 10** に進みます。
- [ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 10** RTMT のカスタムアラートと保存済みプロファイルを更新します。

- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。
- パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。

- ステップ 11** 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します（必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください）。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。
- ステップ 12** IP アドレスを変更する前にサーバが Connection サイトに含まれていた場合、サーバをサイトに再度追加します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/networking/guide/9xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 9.x](#)」の章を参照してください。
- ステップ 13** ディザスタリカバリ システム を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdras.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された、Connection クラスタでない単一の 9.x サーバの IP アドレスの変更



注意

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。変更内容を有効にするには、サーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、`utils system restart` CLI コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。
- `set network dhcp` CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された、Connection クラスタでない単一の 9.x サーバの IP アドレスを変更するには

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。

**注意**

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、サーバが稼働していて利用できることを確認します。
- RTMT を使用してサーバにログインします。
 - 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、[ステップ 3](#) に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。

- ステップ 3** Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- [ツール (Tools)] メニューから [クラスタ管理 (Cluster Management)] を選択します。
 - [サーバ ステータス (Server Status)] カラムで現在のサーバの値が [プライマリ (Primary)] であることを確認します。[サーバ ステータス (Server Status)] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。

- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

- ステップ 5** ディザスタ リカバリ システム を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdrs_ag.html) を参照してください。

- ステップ 6** サイト内ネットワークを構成している場合、Connection サイトからサーバを削除します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/networking/guide/9xcucnetx.html) の「*Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 9.x*」の章を参照してください。

**注意**

サーバを Connection サイトに再度追加する作業には時間がかかる場合があります。この手順を続ける前に、サーバをサイトに再度追加するのに必要な作業を十分に理解しておいてください。

- ステップ 7** DNS サーバでサーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き用 (A) と逆引き用 (PTR) のレコードを両方とも更新します。

- ステップ 8** Connection の管理 でサーバの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unity Connection Administration にログインします。
 - [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
 - [検索 (Find)] を選択してクラスタ内のサーバの一覧を表示します。
 - サーバの名前を選択します。
 - [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドの値を新しい IP アドレスに変更します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 9** サーバおよび該当する場合はデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
 - [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
 - 新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルト ゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
 - [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。
- ステップ 10** RTMT で、サーバが稼働していて利用できることを確認します。
- RTMT を使用してサーバにログインします。
 - 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラート センtral (Alert Central)] をクリックします。
 - 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、**ステップ 10** に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 11** RTMT のカスタム アラートと保存済みプロファイルを更新します。
- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。
 - パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。
- ステップ 12** 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します (必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください)。「**Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント**」(P.12-2) を参照してください。
- ステップ 13** IP アドレスを変更する前にサーバが Connection サイトに含まれていた場合、サーバをサイトに再度追加します。手順については、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdrsag.html にアクセスしてください。
- ステップ 14** ディザスタリカバリ システム を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdrsag.html) を参照してください。

ホスト名で定義された Connection 9.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更

**注意**

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。Connection クラスタが構成されている場合、変更内容を有効にするには、両方のサーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。
- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

ホスト名で定義された Connection 9.x パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。

**注意**

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でパブリッシャ サーバとサブスクリバ サーバが稼働して利用できることを確認します。
- a. RTMT を使用してパブリッシャ サーバにログインします。
 - b. 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - c. 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
 - d. サブスクリバ サーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。
- ステップ 3** パブリッシャ サーバで Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- a. [ツール (Tools)] メニューから [クラスタ管理 (Cluster Management)] を選択します。
 - b. [サーバステータス (Server Status)] カラムで現在のサーバの値が [プライマリ (Primary)] または [セカンダリ (Secondary)] であることを確認します。[サーバステータス (Server Status)] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。

ステップ 4 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

- ステップ 5** ディザスタリカバリシステムを使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdrs_ag.html) を参照してください。
- ステップ 6** サイト内ネットワークを構成している場合、Connection サイトからパブリッシャサーバを削除します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/networking/guide/9xcucnetx.html) の「**Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 9.x**」の章を参照してください。



注意

サーバを Connection サイトに再度追加する作業には時間がかかる場合があります。この手順を続ける前に、サーバをサイトに再度追加するのに必要な作業を十分に理解しておいてください。

- ステップ 7** DNS サーバでパブリッシャサーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き用 (A) と逆引き用 (PTR) のレコードを両方とも更新します。
- ステップ 8** サブスクリバサーバでパブリッシャサーバの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] を選択します。
 - パブリッシャサーバの IP アドレスを変更します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 9** パブリッシャサーバで、パブリッシャサーバおよび該当する場合はデフォルトゲートウェイの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
 - [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
 - 新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにパブリッシャサーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
 - [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。

- ステップ 10** SSH アプリケーションを使用してサブスクリバ サーバにログインし、**utils system restart CLI** コマンドを実行してサーバを再起動して、ローカル名前解決ファイルを更新します。
- ステップ 11** RTMT でパブリッシャ サーバとサブスクリバ サーバが稼働して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してパブリッシャ サーバにログインします。
 - 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ **d.** に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
 - サブスクリバ サーバでステップ **a.** ～ステップ **c.** を繰り返します。
- ステップ 12** RTMT のカスタム アラートと保存済みプロファイルを更新します。
- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。
 - パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。
- ステップ 13** 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します（必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください）。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。
- ステップ 14** IP アドレスを変更する前にパブリッシャ サーバが Connection サイトに含まれていた場合、サーバをサイトに再度追加します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/networking/guide/9xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 9.x](#)」の章を参照してください。
- ステップ 15** ディザスタ リカバリ システム を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdras.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された Connection 9.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更



注意

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。Connection クラスタが構成されている場合、変更内容を有効にするには、両方のサーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart CLI** コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。

- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された Connection 9.x パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。



注意

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でパブリッシャ サーバとサブスクライバ サーバが稼働して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してパブリッシャ サーバにログインします。
 - 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
 - サブスクライバ サーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。

- ステップ 3** パブリッシャ サーバで Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- [ツール (Tools)] メニューから [クラスタ管理 (Cluster Management)] を選択します。
 - [サーバステータス (Server Status)] カラムで現在のサーバの値が [プライマリ (Primary)] または [セカンダリ (Secondary)] であることを確認します。[サーバステータス (Server Status)] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。

- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

- ステップ 5** サイト内ネットワークを構成している場合、Connection サイトからパブリッシャ サーバを削除します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/networking/guide/9xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 9.x](#)」の章を参照してください。

**注意**

サーバを Connection サイトに再度追加する作業には時間がかかる場合があります。この手順を続ける前に、サーバをサイトに再度追加するのに必要な作業を十分に理解しておいてください。

- ステップ 6** ディザスタ リカバリ システム を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdras.html) を参照してください。
- ステップ 7** パブリッシャ サーバの Connection の管理 でパブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unity Connection Administration にログインします。
 - [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
 - [検索 (Find)] を選択してクラスタ内のサーバの一覧を表示します。
 - パブリッシャ サーバの名前を選択します。
 - [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドの値を新しい IP アドレスに変更します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 8** パブリッシャ サーバの Cisco Unified Operating System Administration で、パブリッシャ サーバおよび該当する場合はデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
 - [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
 - 新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにパブリッシャ サーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルト ゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
 - [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。
- ステップ 9** サブスクリバ サーバでパブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] を選択します。
 - パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 10** SSH アプリケーションを使用してサブスクリバ サーバにログインし、**utils system restart CLI** コマンドを実行してサーバを再起動して、ローカル名前解決ファイルを更新します。
- ステップ 11** RTMT でパブリッシャ サーバとサブスクリバ サーバが稼働して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してパブリッシャ サーバにログインします。
 - 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。

- c. 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- d. サブスクリバサーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。

ステップ 12 RTMT のカスタム アラートと保存済みプロファイルを更新します。

- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。
- パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。

ステップ 13 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します (必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください)。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。

ステップ 14 IP アドレスを変更する前にパブリッシャサーバが Connection サイトに含まれていた場合、サーバをサイトに再度追加します。手順については、『[Networking Guide for Cisco Unity Connection](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/networking/guide/9xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 9.x](#)」の章を参照してください。

ステップ 15 ディザスタリカバリシステムを使用してサーバのバックアップを行います。『[Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdrs_ag.html) を参照してください。

ホスト名で定義された Connection 9.x サブスクリバサーバの IP アドレスの変更



注意

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。Connection クラスタが構成されている場合、変更内容を有効にするには、両方のサーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。
- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『[Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions](#)』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

ホスト名で定義された Connection 9.x サブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。
「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。



注意

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でパブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼働して利用できることを確認します。

- RTMT を使用してパブリッシャサーバにログインします。
- 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
- 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- サブスクリバサーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。

- ステップ 3** サブスクリバサーバで Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。

- [ツール (Tools)] メニューから [クラスタ管理 (Cluster Management)] を選択します。
- [サーバステータス (Server Status)] カラムで現在のサーバの値が [プライマリ (Primary)] または [セカンダリ (Secondary)] であることを確認します。[サーバステータス (Server Status)] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。

- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

- ステップ 5** ディザスタリカバリシステムを使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdr ag.html) を参照してください。

- ステップ 6** DNS サーバでサブスクリバサーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き用 (A) と逆引き用 (PTR) のレコードを両方とも更新します。

ステップ 7 サブスクリバサーバとパブリッシャサーバで次の 2 つの CLI コマンドを使用して、DNS の変更がパブリッシャサーバに伝送されることを確認します。

```
utils network host
```

```
show tech network hosts
```

ステップ 8 サブスクリバサーバで、サブスクリバサーバおよび該当する場合はデフォルトゲートウェイの IP アドレスを変更します。

- a. Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- b. [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
- c. [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
- d. 新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにパブリッシャサーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
- e. [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。

ステップ 9 SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログインし、**utils system restart** CLI コマンドを実行してサーバを再起動して、ローカル名前解決ファイルを更新します。

ステップ 10 RTMT でパブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼働していて利用できることを確認します。

- a. RTMT を使用してパブリッシャサーバにログインします。
- b. 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラートセントラル (Alert Central)] をクリックします。
- c. 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- d. サブスクリバサーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。

ステップ 11 RTMT のカスタムアラートと保存済みプロファイルを更新します。

- パフォーマンスカウンタに基づく RTMT のカスタムアラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタムアラートを削除し、再度設定する必要があります。
- パフォーマンスカウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。

ステップ 12 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します (必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください)。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。

ステップ 13 ディザスタリカバリシステムを使用してパブリッシャサーバのバックアップを行います。『[Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x](#)』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdrs_ag.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された Connection 9.x サブスクリバサーバの IP アドレスの変更



注意

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。Connection クラスタが構成されている場合、変更内容を有効にするには、両方のサーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。
- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された Connection 9.x サブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。



注意

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でパブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼働して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してパブリッシャサーバにログインします。
 - 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
 - サブスクリバサーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。
- ステップ 3** サブスクリバサーバで Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- [ツール (Tools)] メニューから [クラスタ管理 (Cluster Management)] を選択します。
 - [サーバステータス (Server Status)] カラムで現在のサーバの値が [プライマリ (Primary)] または [セカンダリ (Secondary)] であることを確認します。[サーバステータス (Server Status)] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。

ステップ 4 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

ステップ 5 ディザスタリカバリシステムを使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdrs_ag.html) を参照してください。

ステップ 6 パブリッシャサーバでサブスクリバサーバの IP アドレスを変更します。

- Cisco Unity Connection Administration にログインします。
- [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
- [検索 (Find)] を選択してクラスタ内のサーバの一覧を表示します。
- サブスクリバサーバの名前を選択します。
- [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドの値を新しい IP アドレスに変更します。
- [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 7 サブスクリバサーバで、サブスクリバサーバおよび該当する場合はデフォルトゲートウェイの IP アドレスを変更します。

- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
- [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
- 新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにパブリッシャサーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
- [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。

ステップ 8 SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログインし、**utils system restart** CLI コマンドを実行してサーバを再起動して、ローカル名前解決ファイルを更新します。

ステップ 9 RTMT でパブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼働していて利用できることを確認します。

- RTMT を使用してパブリッシャサーバにログインします。
- 左ペインの [ツール (Tools)] にある [アラートセントラル (Alert Central)] をクリックします。
- 右側のペインにある [システム (System)] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。

[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。

d. サブスクリバ サーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。

ステップ 10 RTMT のカスタム アラートと保存済みプロファイルを更新します。

- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。
- パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。

ステップ 11 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します（必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください）。「[Connection 9.x サーバの IP アドレスの変更が必要な関連コンポーネント](#)」(P.12-2) を参照してください。

ステップ 12 ディザスタ リカバリ システム を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/drs_administration/guide/9xcucdrs_ag.html) を参照してください。

Cisco ボイスメール組織内の Connection 9.x サイト ゲートウェイの IP アドレスの変更

Connection ネットワーキングが設定されている場合の Connection サイト ゲートウェイの置き換えについては、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 9.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/9x/administration/guide/9xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 9.x](#)」の章の「[Making Changes to a Connection Site Gateway](#)」を参照してください。
